

## 1 全ての人が互いに支え合うことのできる「心」を醸成する『ひとづくり』

- ひとにやさしいまちづくり推進の基本となる、多様な人(※)の存在を理解し、お互いを尊重し、支え合うことのできる「心」の醸成に取り組みます。(※ 高齢者、障がい者、妊産婦、子ども、外国人、性的マイノリティなどを含む多様な人)
- ① 意識啓発の促進
- ユニバーサルデザインや多様な人の存在、**ひとにやさしいまちづくりの理解**のため、広報活動の継続、研修会等を実施
  - 誘導ブロック等、障がい者等に配慮した設備・制度の目的やあり方などの理解が広がるよう周知
  - 特に多機能トイレについては、利用者の集中を緩和し、車いす使用者が円滑に利用することができるよう、個別ニーズに対応した各種設備・機能を適正に分散してトイレを配置するなど、設備のあり方について周知
  - 公共施設の点検活動等、触れて、理解を促進する活動の実施を促進するほか、国実施の「心のバリアフリー」の取組との連携
  - ひとにやさしい駐車場の普及により、適正利用を促進
  - ヘルプマークの普及をはじめとし、各種マークの紹介等を通じて、お互いに支え合う心の醸成を促進
- ② 学ぶ機会の充実
- 障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に学ぶことのできる教育の場を拡充
  - 総合的な学習等によるユニバーサルデザインに対する児童生徒の理解促進のため、教員研修内容を充実
  - 各教科等で心のバリアフリーを扱うとともに、特別支援学校の交流籍や共同学習により、児童生徒の相互理解を促進
- ③ 人材・組織の育成
- 地域や商業施設等での人材育成のため研修の実施等のほか、国が交通事業者、宿泊事業者向けに策定した障がい者等の接遇マニュアルの普及
  - 県・市町村職員の理解促進に向けた研修を実施
  - NPO法人等の活動基盤の強化の支援、連携・協働のネットワークづくり
- 指標 ひとにやさしいまちづくり県民認知割合(%)

## 2 全ての人が安全かつ円滑に移動でき、快適に過ごすことができる『まちづくり』

- 「まち」は人々が、様々な形で社会に参画し、自己実現を図る場です。全ての人が安全かつ円滑に移動でき、快適に過ごすことができる「まちづくり」をめざし、建築物、交通機関等の改善に取り組みます。
- ① まちづくり全体
- 市町村によるバリアフリー法に基づく基本構想及びマスタープラン(※)の策定を支援
  - 県の各種計画にユニバーサルデザインの考え方を積極的に取り込み、総合的なまちづくりを推進
  - ユニバーサルデザインの考え方に基づいた復興まちづくりが行われるよう助言や支援
  - ひとにやさしい駐車場の更なる拡充**
- ※マスタープラン:バリアフリー法において規定された、市町村が重点的に取り組む地区を設定し、バリアフリーの方針を策定する制度
- ② 公共的施設・建築物
- 「まちづくりユニバーサルデザインガイドライン」の一層の周知と積極的な活用を促進
  - ひとにやさしいまちづくり条例に基づく**公共的施設整備基準への適合を促進**
  - 本県の気候風土を踏まえ、積雪、凍結に対応するひさしの設置等を促進
- ③ 交通機関等
- 交通事業者への働きかけによる誰もが利用しやすい公共交通機関の整備、地域公共交通の維持・確保
  - ノンステップバスの導入促進**と乗務員や利用者向け乗り方教室開催の交通事業者に対する働きかけ
  - 視覚障がい者に対応した音声案内など、誰もが必要な情報を得ることができる交通施設や車内等での情報提供の促進
- ④ 道路
- 歩道の拡幅、平坦化、段差解消、無電柱化、誘導ブロックの設置(黄色を基本)、歩車道分離等への取組
  - 冬季における迅速で適切な除雪を実施
  - 外国人にも分かりやすい道路標識の普及、案内標識における英語表示の統一
- ⑤ 住宅
- 県営住宅のユニバーサルデザイン化の推進、民間共同住宅への普及を促進
  - 室内の温度差による身体への負担を解消する「温熱環境上のバリアフリー」を行う技術者を養成し、安心して快適に住むことのできる住宅の普及を促進
  - 高齢者等の居住に配慮した「岩手型住宅」を推進
- ⑥ 観光地
- 宿泊施設等の受入環境の整備の一層の促進により、誰もが安心して旅行を楽しむことができる環境の充実
  - 案内表示への多言語での併記や外国人対応可能な観光案内所の設置等、障がい者等に対する音声や手話によるガイド等
- ⑦ 公園・水辺空間等
- 遊歩道、案内表示等のユニバーサルデザイン化を促進
- ⑧ 商店街
- 駐車場の整備、休憩所等の設置、案内表示・商品展示の改善、接遇の向上を支援
- 指標 ・ひとにやさしい駐車場利用証制度駐車区画数(区画)〔累計〕  
・バリアフリー化に対応した特定公共的施設数(施設)〔累計〕  
・ノンステップバス導入率(%)

## 3 全ての人に使いやすい『ものづくり』

- 私たちが日常生活で使う「もの」についても、全ての人に使いやすいデザインであることが重要です。ユニバーサルデザインの考え方に基づいた製品開発、製品利用の促進を支援します。
- ① 製品開発
- ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた**製品開発、技術的支援**
  - 優良事例の収集、表彰により、事業者の意識啓発の促進
- ② 製品利用
- ユニバーサルデザイン製品の販路開拓支援を促進
- 指標 誰もが使いやすい製品の研究・開発支援件数(件／年)

## 4 全ての人が必要なときに必要な形で受け取ることができる『情報発信』

- 円滑な社会生活を送る上で、必要な情報を、必要なときに、必要な形で受け取り、発信できることが重要です。情報発信の方法や内容の充実を図るとともに、ユニバーサルデザイン施設等に関する情報収集・情報発信に取り組みます。
- ① 情報発信方法の工夫
- 多様な広報媒体を通じて、複数の知覚、言語に訴える形で、情報を発信
  - 情報発信の種別(印刷物、案内表示、ホームページ等)ごとに、必要な情報を必要なときに、分かりやすい形で得ることができる情報ユニバーサルデザイン化を促進
  - 庁舎内の案内表示のユニバーサルデザイン化を推進
  - 避難行動要支援者への複数手段による防災情報の発信を促進、おねがいカードを普及
  - 災害時における外国人の迅速な避難のため多言語や、やさしい日本語での案内表示、災害情報の発信
  - 点訳、朗読、**手話、要約筆記等の人材養成による視覚・聴覚障がい者への情報発信の充実**
- ② 情報発信内容の充実
- ユニバーサルデザイン対応施設の情報について、「ユニバーサルデザイン電子マップ」**により公開
  - いわてバリアフリー観光情報案内所の活用により、宿泊施設等のバリアフリー対応情報を広く発信
- ③ 情報化対応
- 情報技術の適切な活用のため、情報ユニバーサルデザイン環境の整備を促進
  - 全ての人に使いやすい情報機器類の普及を促進
  - 電子申請・届出システムの拡大や利活用を促進
- 指標 ・手話通訳者・要約筆記者派遣件数(件／年)  
・ユニバーサルデザイン電子マップ掲載数(施設)〔累計〕

## 5 全ての人が多様な分野で主体的に活躍できる『参画』

- ひとにやさしいまちづくりは、全ての人が活躍できる社会づくりを目的とするものです。多様なライフスタイルに応じた就労の場の確保や、誰もがあらゆる分野で活躍できる環境づくりに取り組みます。
- ① 雇用・労働環境整備の促進、子育てと就業の両立支援
- 働き方の改善による魅力ある職場づくり
  - ライフステージやライフスタイルに応じた働き方ができる環境整備を促進
  - 誰もが持てる能力を最大限に発揮できるよう、仕事場のユニバーサルデザイン化や省力化機器等による作業軽減等、就業環境の整備を促進
  - 市町村と連携した保育所定員の拡大**など子ども・子育て支援を充実、子育てにやさしい職場環境づくりを支援
  - 男女がお互いに尊重し参画する社会となるよう、制度・慣行の見直し、意識啓発を実施
  - 障がい者の就労先の確保**や一般就労への移行及び就労後の職場定着を支援
- ② 誰もがあらゆる分野で活躍できる環境づくり
- 誰もが参加しやすいイベントや会議等の開催・運営方法等を普及
  - 様々な困りごとに身近なところで誰もが相談ができ、必要な支援を受けられる体制づくりの促進
  - 障がい者の余暇活動や社会参加支援のため、情報機器の利用促進や福祉的就労の場を拡充、また、補助犬についての理解を促進
  - 高齢者への情報提供などによる地域活動や社会貢献活動への参加を促進
  - 認知症になっても地域で安心して生活ができるよう、正しい知識の普及、見守り体制の構築を促進
  - 外国人県民等が暮らしやすいよう、生活を支える人材の育成、国際理解・交流を推進
  - 障がいのある人もない人も、性別や年齢に関わらず、共にスポーツを楽しむ機会を拡大
  - アール・ブリュット作品の巡回展の実施等により、障がい者の多様な文化芸術活動への参加を支援
- 指標 ・保育を必要とする子どもに係る利用定員(4月1日現在)(人)  
・障がい者の雇用率(%)